



秋の学習状況調査結果を活用した

学校生活の充実のために自己肯定感を高める取組を！

管内の現状⇒自己肯定感に課題

小5	管内	県	中2	管内	県
秋	73.1	77.8	秋	71.3	75.0
春	80.7	82.3	春	73.3	75.6

※学習状況調査「自分にはよいところがある」肯定的回答 割合%

「自己肯定感」が高まることで 予想される児童生徒の姿

- ・物事や他者を肯定的に受け止めることができる。
- ・自分の考えを伝えることができる。
- ・物事に積極的に挑戦することができる。
- ・逆境にも立ち向かうことができる。
- ・自己決定することができる。
- ・規範意識が高まる（※1）。
- ・学力が高まる（※2）。等

（※1）教育実行再生会議（H28.10.28）の参考資料より

（※2）2017年度全国学力・学習状況調査クロス集計より



学校や保護者が考える「目指す姿」と重なるところが多いですね。

今できる！自己肯定感を高める取組例

1. ピックアップと共有、支援方針の決定

- ・秋の学習状況調査のデータを活用し、「自分にはよいところがあると思う」の否定的回答者をピックアップする。
- ・ピックアップした児童生徒の状況を、学年団等のかかわりのある教職員で共有し、具体的な支援を決定する。

2. ピックアップした児童生徒を支援する。

【支援例】

- ・適切な行動や頑張りを「当たり前」とせず、認め、励まし、勇気づける。（生活ノートや連絡帳、自主学习ノートへのコメント、休み時間の会話等を利用する）
- ・授業や係活動等では、意図的に役割を与え他者から認めてもらう機会をつくる。
- ・保護者と連携し、家庭でも肯定的な声かけをお願いする。
- ・「学力を向上させる」「勉強を好きにさせる」「将来の目標を持たせる」ための支援を個別に行う（※3）。等

3. 検証し、支援方針を見直す。

- ・年度内に学校独自の生徒アンケートを実施し、支援対象者や方針を再検討する。

（※3）「成績」「勉強好き嫌い」「将来の目標」と自己肯定感の間には相関関係がある（2018.6.15教育新聞より）